

『島原湊龍馬館』 ～ 島原観光の新たな起点として ～



1. 坂本龍馬ブーム

幕末の動乱期に活躍した志士のなかでも抜群の人気を誇る坂本龍馬。今年（2010年）は、NHK大河ドラマ「龍馬伝」の放送で大きな“龍馬ブーム”が到来している。

特に、龍馬の出身地である高知県は、大河ドラマと連動した「土佐・龍馬であい博」を開催し、メイン会場となる「高知・龍馬ろまん社中」を中心に3カ所のサテライト会場を設けるなど、地元の英雄を最大限に活用しているが、龍馬の活躍の舞台となった本県でも、長崎市と佐世保市に展示品・設備を充実させた関連施設が開設された。まずは、長崎市の浜町アーケード内に2010年1月2日「長崎まちなか龍馬館」が、続いて同9日、長崎歴史文化博物館内に「長崎奉行所・龍馬伝館」が相次いでオープン、佐世保市にはハウステンボス内に翌2月27日「佐世保・ハウステンボス龍馬伝館」がオープンし、龍馬を活用した誘客を積極的に展開している。

そうしたなか、島原市津町^{つまち}にも龍馬との関わりを紹介する施設として「島原湊龍馬館」が同年2月23日にオープンした。

2. 龍馬の本県初上陸地である島原市

1864年2月、坂本龍馬が幕府海軍No.2「軍艦奉行並」であった勝海舟の随行員として長崎へ赴くべく、長崎県に初めて降り立った地が島原市である。熊本から海路、島原へと上陸した一行は、現・島原市津町にあった船番所（海の関所）を経て、「別当」（当時藩から城下町の統治を任されていた町年寄のこと。大名等の宿舎としても使われる程の大屋敷を所有。）の中村家にて休息の後、島原街道のうち、長崎への最短ルートとなる千々石道を通り長崎へと向かっている。島原湊龍馬館は、この船番所跡に立つ広馬場安全安心ステーション内に開館した。

この広馬場安全安心ステーションは、元・島原署広馬場交番であり、交番の統廃合により2006年3月末に業務終了した建物を、地元住民の会「白山地区安全安心連絡会」が、夜間パトロールなどを行う際の中心施設として同年7月に蘇らせたものである。

大河ドラマの放送は“龍馬長崎初上陸の地・島原”をアピールする絶好の機会と捉えた島原市の関係者が、龍馬の上陸地点にその痕跡が何もないのはインパクトに欠けると考え、船番所跡に立つ広馬場安全安心ステーションの存在に着目、同建物内に「島原湊龍馬館」を開設し、同時に龍馬が上陸した海から上がる石段の近くには記念碑を設置した。



龍馬が上陸した石段と新たに設置した記念碑

館内は、龍馬の等身大パネルや龍馬の島原での足跡を紹介するパネル、観光関連パンフレットなどが置かれた簡素なつくりとなっており、長崎市や佐世保市にある大規模龍馬館とはかなり趣

を異にしている。これは、24時間出入り自由で警察署への直通非常ボタンもある地域の治安を守る施設に龍馬館が併設されているためで、入館料も設定されず、他の龍馬館と比較するとかなり小規模なものとなった。しかしながら、既存施設を有効活用することにより、多額の費用を投じることなく、これまで何もなかった“龍馬長崎初上陸の地”に新たな拠点を築くことに成功している。



館内に展示してあるパネルの一部

3. 島原観光の新たな起点として

この「島原湊龍馬館」の利用実績は、24時間出入り自由のため定かではないが、龍馬が島原市内を歩いた道のりを示した観光マップ「長崎龍馬の道・島原編」は、館内に用意していた100部が瞬く間に無くなり関係者が慌てて増刷するなど、相当数の龍馬ファンがこの地を訪れていることが推察される。この「長崎龍馬の道」とは、島原市から長崎市まで龍馬が辿った旧島原・長崎街道のことであり、島原、雲仙、諫早、長崎の4市から成る「長崎龍馬の道活用広域観光推進協議会」が新たな観光ツールとしてアピールしているが、龍馬ブームの今年は知名度アップの絶好機となっている。例えば、本年4月14日、全国で行われている「坂本龍馬グランプリウォーク」の第7弾として、大分から長崎までの龍馬の足跡を辿る「龍馬飛翔ウォーク」の長崎ステージが島原の龍馬上陸地を皮切りに開催されたが、そこには約100人の参加者が集まった。



長崎龍馬の道・島原編のマップ

長崎市や佐世保市の龍馬館は、大河ドラマ放映期間にほぼリンクする形で設置されているが、この「島原湊龍馬館」は、龍馬が長崎まで辿った道の起点に位置しているため、大河ドラマの放送終了と同時に閉館する必要がない。この点、県内における他の龍馬館とは大きく異なっており、今後も新たな観光ツール「長崎龍馬の道」の情報発信基地としての役割が期待される。その展示物は、建物が24時間開放されているため、その選定が難しい面はあるものの、今後閉館する県内3カ所の龍馬館より、相応の資料を譲り受けることなども選択肢として考えられる。

龍馬が長崎の地を初めて踏んだ地にある島原市の龍馬館。島原観光の新たな起点として、今後も存続・発展していくことを期待したい。

(杉本 士郎)